

1. 建物概要

建物名称	中東連・浜松地区新特別支援学校 校舎新築他工事	BEE	1.4	BEEランク	B+	★★★
------	-------------------------	-----	-----	--------	----	-----

2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点*/満点	取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.5	/5	 ふつつ
"災害に強いすおか"の形成 (Disaster)	4.0	/5	 よい
"すおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	4.3	/5	 よい
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.6	/5	 がんばろう
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示 します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上  ふつつ 3 点以上  がんばろう 3 点未満 

3. 重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。		内訳対応項目	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)		得点	3.5
 ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) (※下記記載例は削除し今回計画の環境配慮概要を自由記述) ①ダブルスキンの採用による開口部の温熱環境の向上。 ②ライトシェルフの採用。 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤敷地内既存大景木の建物廻り再配置により外構緑地指数50%以上を確保した。 ⑥緑地の緑が連続するような外構植栽計画を行った。 ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑦ダブルスキンによる高断熱化。 ⑧自然通風、ライトシェルフによる自然エネルギーの利用。 ⑨LED照明の採用。高効率空調機の導入。 ⑩BEMSの導入によるエネルギー管理。 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪雨水利用設備の導入による雨水の有効利用。 ⑫地下躯体部分における高炉セメントの採用。 ⑬不活性ガス(CO2)消火設備の導入。 ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭省エネルギー対策と、高炉セメントの採用。 ⑮外構の全舗装面に保水性ブロックを採用した。主風向に対する見付面積比を50%以下とした。		Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④ Q-3 1 ⑤ 3 3.2 ⑥ LR-1 1 ⑦ 2 ⑧ 3 ⑨ 4 4.1 ⑩ 4.2 ⑩ LR-2 1 1.1 ⑪ 1.2 1.2.1 ⑪ 1.2.2 ⑪ 2 2.1 ⑫ 2.2 ⑫ 2.3 ⑫ 2.4 ⑫ 2.5 ⑫ 2.6 ⑫ 3 3.1 ⑬ 3.2 3.2.1 ⑬ 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬ LR-3 1 ⑭ 2 2.2 ⑮	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ⑤ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ⑥ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ⑦ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ⑧ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ⑨ 主要設備機器の更新必要間隔 ⑩ 生物環境の保全と創出 ⑪ 敷地内温熱環境の向上 ⑫ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑬ 自然エネルギー利用 ⑭ 設備システムの高効率化 ⑮ モニタリング ⑯ 運用管理体制 ⑰ 節水 ⑱ 雨水利用システム導入の有無 ⑲ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑳ 材料使用量の削減 ㉑ 既存建築躯体等の継続使用 ㉒ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ㉓ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ㉔ 持続可能な森林から産出された木材 ㉕ 部材の再利用可能性向上への取組み ㉖ 有害物質を含まない材料の使用 ㉗ 消火剤 ㉘ 断熱材 ㉙ 冷媒 ㉚ 地球温暖化への配慮 ㉛ 温熱環境悪化の改善
		Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑰ 免震・制振性能 ⑱ 空調・換気設備 ⑲ 給排水・衛生設備 ⑳ 電気設備 ㉑ 機械・配管支持方法 ㉒ 通信・情報設備
		Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑳ 3 3.1.1 ㉑ 3.1.2 ㉑	㉑ ユニバーサルデザイン計画 階高のゆとり 空間の形状・自由さ
		Q-3 3 3.1 ㉒	㉒ 地域性への配慮、快適性の向上
		Q-3 1 ⑤ 2 ⑥ 3 3.2 ⑥	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ まちなみ景観への配慮 ⑦ 敷地内温熱環境の向上
		LR-2 2 2.5 ⑫ LR-3 2 2.2 ⑮	⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑮ 温熱環境悪化の改善
"災害に強いすおか"の形成(Disaster)		得点	4.0
 ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑯制振装置の採用。		Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑰ 免震・制振性能 ⑱ 空調・換気設備 ⑲ 給排水・衛生設備 ⑳ 電気設備 ㉑ 機械・配管支持方法 ㉒ 通信・情報設備
"すおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		得点	4.3
 ■サービス性能対策 (⑯機能性・使いやすさ/⑰心理性・快適性/⑱空間のゆとり) ⑯バリアフリー法誘導基準相当の計画とした。 ■室外環境(敷地内)対策 (㉒地域性・アメニティへの配慮) ㉒街並みに配慮し、木材等自然素材を活用した外装とした。		Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑳ 3 3.1.1 ㉑ 3.1.2 ㉑	㉑ ユニバーサルデザイン計画 階高のゆとり 空間の形状・自由さ
		Q-3 3 3.1 ㉒	㉒ 地域性への配慮、快適性の向上
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)		得点	2.6
 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥まちなみ・景観への配慮/⑦敷地内温熱環境の向上) ⑤敷地内既存大景木の建物廻り再配置により外構緑地指数50%以上を確保した。 ⑥緑地の緑が連続するような外構植栽計画を行った。 ■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善) ⑫静岡県産材の使用比率が0%。 ⑮外構の全舗装面に保水性ブロックを採用した。主風向に対する見付面積比を50%以下とした。		Q-3 1 ⑤ 2 ⑥ 3 3.2 ⑥	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ まちなみ景観への配慮 ⑦ 敷地内温熱環境の向上
		LR-2 2 2.5 ⑫ LR-3 2 2.2 ⑮	⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑮ 温熱環境悪化の改善

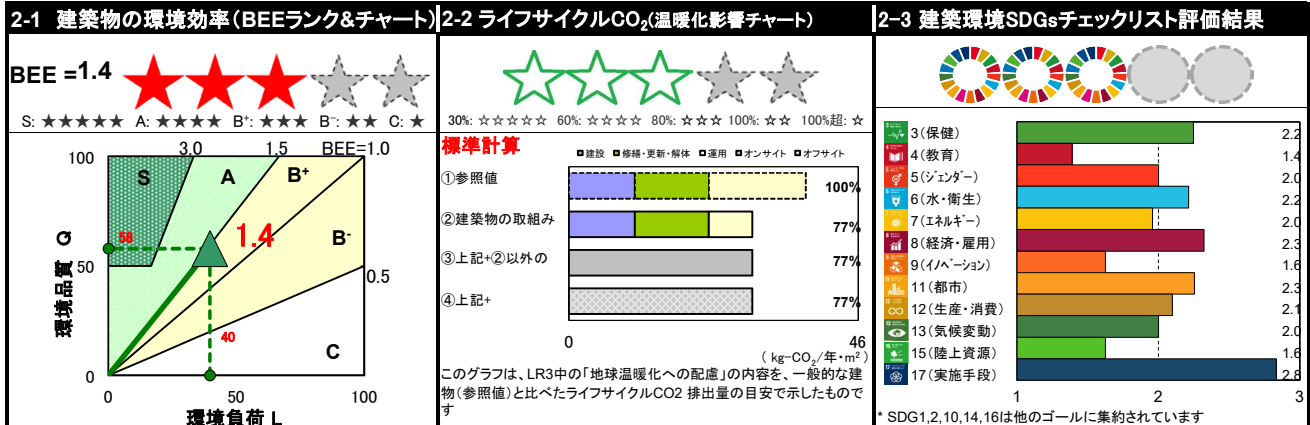
CASBEE®-建築(新築) 2021年SDGs対応版

評価結果

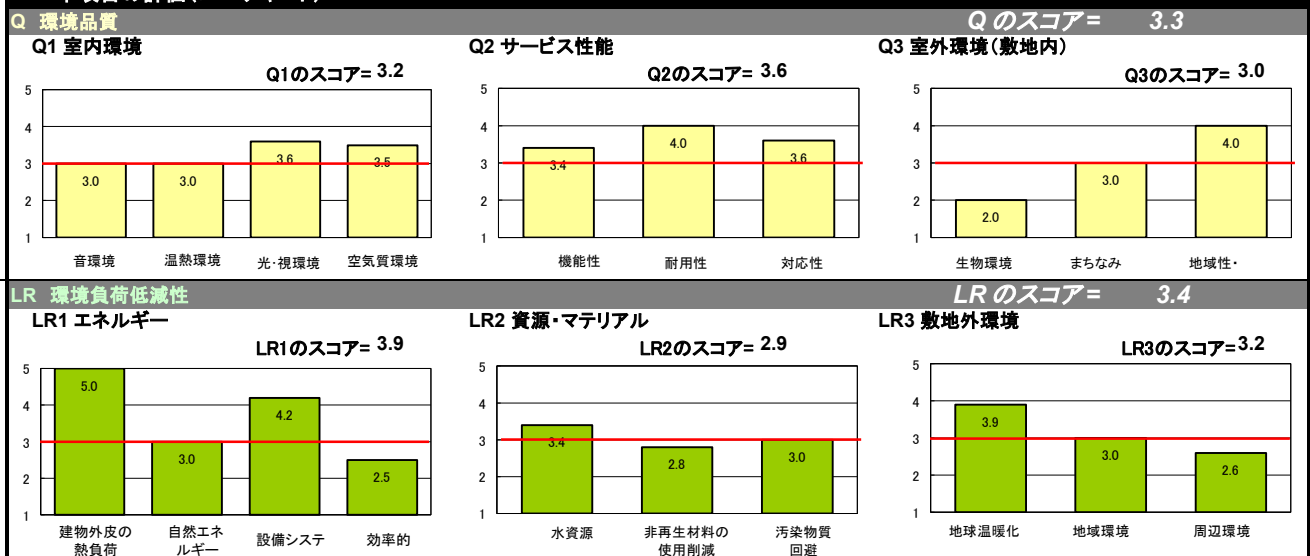
■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_速報版

■使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.4)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	中東遠・浜松地区新特別支援学校	階数	地上3F
建設地	静岡県磐田市加茂1026-1、1029-8	構造	S造
用途地域	法第22条区域	平均居住人員	265 人
地域区分	7地域	年間使用時間	2,600 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年2月 予定	評価の実施日	2025年6月25日
敷地面積	16,431 m ²	作成者	針谷建築事務所 増田晋
建築面積	3,375 m ²	確認日	
延床面積	6,105 m ²	確認者	



2-4 中項目の評価(バーチャート)



3 設計上の配慮事項

総合		その他
誰もが利用しやすいユニバーサルデザインとし、堅牢な建物(耐震性の確保、長寿命化、防犯事故対策、メンテナンス性・移動快適性に配慮する。また、日照・採光・通風・換気・室温・音等の影響を十分配慮した計画とする。さらに、障害の状態や行動特性・動作領域・人体寸法を考慮するとともに、心理的な影響も含めた計画とする。これはCASBEE静岡(2021年版)による評価結果です。		特になし。
Q1 室内環境 バルコニー・庇を設置することで日射遮蔽等に対策を施し、中庭を計画することによりすべての居室が外部に面することで、自然採光、自然換気を十分に活用する計画とした。 また、児童・生徒に対し、安全性・快適性・利便性に優れた設備とし、周辺環境に配慮した、低騒音・低振動であり、大気汚染・排出CO ₂ を極力防止する。	Q2 サービス性能 建築物移動円滑化基準を満たし、児童・生徒が使いやすい建物となっている。 また、空間にゆとりを持たせることで、生徒数の増減等に対応できる計画とした。	Q3 室外環境(敷地内) バルコニーや庇を積極的に計画に取り入れ、室外を移動する児童・生徒や保護者、先生に配慮した計画とした。 また、敷地周辺の住宅街に対して建築物が圧迫感を持たないように計画した。
LR1 エネルギー 授業、活動が多様なことから個別の運転がしやすい方式を選定しパッシブとアクティブの各手法を適切に組合せた計画としている。 断熱、遮熱などの基本性能を高め、設備機器の負担を軽減している。	LR2 資源・マテリアル 県産木材の積極的な活用等により、地域での環境負荷の低減に貢献し、環境保全に配慮したものとす。	LR3 敷地外環境 周辺環境に対して光害、日照障害、風害のない建物とする。また、十分な駐車場・駐輪スペースを設け、周囲の交通に影響が出ないようにする。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される